# 平成 11 年度
# 研究成果発表会

**厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）**
**「成人T細胞白血病（ATL）の発症予防と治療に関する総合的研究」班**
**平成11年度研究成果発表会・公開シンポジウム**

**平成11年12月3日（金）**
**午後3時～6時30分**
**鹿児島東急ホテル（桜島の間）**

（15：00-15：05）
開会の挨拶

班長　園田俊郎
（鹿児島大学医学部ウイルス学）

班員研究発表（発表10分、質議応答5分）
座長：藤吉利信　（鹿児島大学医学部ウイルス学）

（15：05-15：20）
1.　白血病細胞に発現されるカドヘリンとその制御機構

小澤政之
（鹿児島大学医学部第二生化学）

（15：20-15：35）
2.　成人T細胞白血病（ATL）での多剤耐性関連蛋白とその克服

大納伸人、秋山伸一
（鹿児島大学医学部附属腫瘍研究施設）

（15：35-15：50）
3.　成人T細胞白血病／リンパ腫(ATLL)とヨーロッパのT細胞性リンパ腫におけるE2Fの発現の比較検討

蓮井和久、他7名
（鹿児島大学医学部病理学第二）

（15：50-16：05）
4.　ATLL、キャリアにおけるエクリン汗腺上皮へのHTLV-I感染について

溝口志真子、瀬戸山　充
（鹿児島大学医学部皮膚科）
榮鶴義人
（鹿児島大学医学部難治性ウイルス疾患センター）

（16：05-16：20）
5.　末梢血中に出現する異常リンパ球の形態学的検討
　—末梢血塗沫染色標本でHTLV-Iキャリアがわかるか？—

野村紘一郎、尾辻昌信
（鹿児島県立北薩病院）

（16：20-16：35）
6.　ATL家族内のキャリアにおけるHTLV-I感染細胞の増加について

古川良尚、納　光弘
（鹿児島大学医学部第三内科学）

（16：35-16：50）
7.　HAMおよびHTLV-Iキャリアにおけるunintegrated proviral DNA

竹之内徳博、松岡英二、伊佐敷靖、
宇宿功市郎、納　光弘、出雲周二
（鹿児島大学医学部難治性ウイルス疾患センター）

座長：班長　園田俊郎　（鹿児島大学医学部ウイルス学）

（16：50-17：05）
8.　鹿児島県におけるATLの疫学

白石知子、郡山千早、秋葉澄伯
（鹿児島大学医学部公衆衛生学）

（17：05-17：20）
9.　HTLV-I Taxの発現抑制による成人T細胞白血病の治療の可能性について

松下格司、有馬直道、尾崎厚夫、
鄭　忠和
（鹿児島大学医学部第一内科学）

（17：20-17：35）
10.　キメラSF25抗体によるATL細胞のアポトーシスの誘導

花田修一、鈴木紳介
（国立南九州中央病院内科）

（17：35-17：50）
11.　成人T細胞白血病に対する同種骨髄移植

宇都宮 與、高塚祥芝、竹内昇吾
牧野虎彦、中島　哲
（今村病院分院）

（17：50-18：00）
12.　ATLの発症を予防するHTLV-Iペプチドワクチン開発に関する研究

屋敷伸治、園田俊郎
（鹿児島大学医学部ウイルス学）

（18：00-18：10）
13.　緑茶摂取によるATLの発症予防効果に関する研究
—HTLV-Iキャリアを対象とした緑茶飲用の介入試験に向けての基礎的研究—

屋敷伸治、李　洪川、園田純一郎、
藤吉利信、園田俊郎
（鹿児島大学医学部ウイルス学）
吉永光裕、永田行博
（鹿児島大学医学部産婦人科）
郡山千早、秋葉澄伯
（鹿児島大学医学部公衆衛生学）

（18：10-18：15）
研究総括および平成12～14年度研究計画

班長　園田俊郎

（18：15-18：25）
研究成果の評価ならびに助言

安達一彦　先生
（宇宙開発事業団企画部）
（前鹿児島県保健福祉部長）

（18：25-18：30）
閉会挨拶

矢島鉄也　先生
（鹿児島県保健福祉部長）

**平成11年度厚生科学研究費研究成果等普及啓発事業**

# 新興・再興感染症研究研究成果発表会（国民向け）

# 「緑茶と健康」

**期日：平成12年3月25日（土）**
**場所：鹿児島県看護研修会館**
**（鹿児島市鴨池新町21-5）**
**時間：午後1時～5時**

開会挨拶：園田俊郎　（鹿児島大学医学部ウイルス学教授）

1. **基調講演**（午後1時～1時45分）
園田俊郎　（鹿児島大学医学部ウイルス学教授）
「成人T細胞白血病（ATL)の予防と治療に関する研究の現状」

2. **特別講演**（午後1時45分～2時45分）
座長：園田俊郎
藤木博太　（埼玉県がんセンター研究所所長）
「緑茶によるがん予防-日米の研究状況」

休憩　（15分）

3. **パネルディスカッション**（午後3時00分～5時）
「ATLの予防・治療の展望」
司会：宇田英典　（鹿児島県保健福祉部保健予防課長）
パネリスト
秋葉澄伯　（鹿児島大学医学部公衆衛生学教授）
有馬直道　（鹿児島大学医学部第一内科学講師）
野村紘一郎（鹿児島県立北薩病院院長）
太良光利　（鹿児島市立病院内科医長）
吉永光裕　（鹿児島大学医学部附属病院周産母子センター助教授）
宇都宮 與　（今村病院分院内科部長）
園田俊郎　（鹿児島大学医学部ウイルス学教授）

閉会挨拶：内山　裕　（鹿児島ATL制圧委員会委員長）

主催
新興・再興感染症研究事業
「成人T細胞白血病（ATL)の発症予防と治療に関する総合的研究」班
主任研究者　園田俊郎

共催
財団法人ヒューマンサイエンス振興財団

事務局：鹿児島大学医学部ウイルス学講座
〒890-8520　鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
TEL: 099-275-5283　FAX: 099-265-8164

# 報道記事

# 緑茶のATL予防効果を試験へ

「緑茶にATL（成人T細胞白血病）を予防する効果がある」との研究を昨年発表した鹿児島大学医学部の園田俊郎教授らの研究グループは、実際に鹿児島県在住のキャリアに緑茶を飲んでもらい効果を調べる介入試験の計画をまとめた。三日、鹿児島市の鹿児島東急ホテルである「成人T細胞白血病の発症予防と治療に関する総合研究班」の研究発表会で報告する。

園田教授によると、ATLのウイルスHTLV－Iに感染した県内在住のキャリアに参加を呼びかける。十分な説明をして同意が得られたキャリアを二班に分け、第一班は半年間毎日十杯の緑茶を飲み続けた後、半年間飲用をやめる。第二班は逆に半年間は緑茶を飲まず、残りの半年間毎日十杯ずつ緑茶を飲み、それぞれ採血して効果を観察するという。

研究に協力するキャリアのプライバシー保護のため、研究グループは①ウイルス分析②キャリアへの説明③採血―の三班で構成。キャリアには説明と同意を依頼するグループしか接触せず、他のグループにはだれのデータか分からないようにするという。

## 鹿大・園田教授ら きょう計画発表

研究グループは十一月末に鹿児島大学倫理委員会に計画を申請、委員会の同意が得られれば来年四月から試験に入るという。

園田教授は「ATLは鹿児島に多い難病だが、効果的な予防法は見つかっていない。緑茶が本当に人に効果があるのかを調べる大切な試験で、市民参加の研究にしたいという気持ちで計画を立てた」と話している。研究発表会は公開で午後三時から六時半まで。

---

# かお

## ATLウイルス感染者に緑茶の飲用試験を始める 鹿児島大医学部教授 園田（そのだ） 俊郎（しゅんろう）さん

緑茶で難病の成人T細胞白血病（ATL）の予防も治療もできるとしたらどうだろう。鹿児島大学医学部は四月からそれを実証するために、ATLウイルス感染者（キャリア）に緑茶を飲んでもらう試験を行う。その責任者だ。

ウイルス学講座教授。緑茶との出合いは出身の九州大学医学部の二年先輩で、埼玉県立がんセンター研究所の藤木博太所長の研究がきっかけだ。藤木所長は「緑茶によるがん予防」の研究で世界中が注目する成果を挙げていた。

「これだ」と、緑茶をATL細胞に応用したところ、緑茶の主成分のカテキンがウイルスに感染した細胞の増殖を抑える作用を確かめられた。感染から発症へと進むのを抑える効果も期待できる。

「感染防止と発症予防。二十年間、きっとこんな作用がある物質があるはずだと探してきた。それが人類が二千年も飲み続け、安全が確認されている緑茶とは」。今度の試験は実験室の研究から「本当に人に効くのか」に移る。

枕崎市の眼科医の家に生まれた。兄が跡を継ぐ医師一族。小学校卒業後、鹿児島市の中学校に入学し鶴丸高、九州大学と進んだ。大学で知り合った純子夫人（六）に言われた。

### 感染と発症予防に世界一の成果を出したい

「私は幼稚園から大学まで徒歩で行けた」と。「自分は中学校から親元を離れて学校に行かざるを得なかったのにこの差はなんなんだ」

この研究を通して「鹿大を世界一の大学にして、文化、地域、経済の格差をなくす手助けをしたい」。だから今回の試験には地元知覧産の無農薬茶だけを使う。枕崎市に本社のある薩摩酒造が、緑茶エキスを抽出してカプセルをつくり協力関係も生まれた。

二十五日藤木氏を招き、鹿児島市の看護研修会館で講演会も行う。「成果が楽しみでたまらない」。六十二歳。

（社会部・高橋 千史）

南日本新聞 2000、3.22

南日本新聞 3/4

第3種郵便物認可

# 緑茶のATL試験承認

## 鹿大倫理委 エキス半年間飲用

## 「着床前」遺伝子診断検討へ

鹿児島大学医学部倫理委員会（佐伯武頼委員長）は三日、園田俊郎教授（ウイルス学）らの研究グループが申請していた「緑茶摂取によるATL（成人T細胞白血病）の発症予防」について人の飲用試験を行うことを承認した。

園田教授らが計画している試験は、緑茶のエキスを抽出したカプセルを使用。キャリア（ウイルス保持者）を二班に分け、第一班が一日十五個のカプセルを三回に分けて半年間飲み続けた後、半年間飲用をやめる。第二班は逆に半年間は緑茶を飲まず、残りの半年間に毎日カプセルを飲み、血液検査で効果を観察する計画。

キャリアのプライバシー保護のため、三班に分け、キャリアにはインフォームドコンセント（十分な説明と同意）を行うグループしか接触しない。緑茶で「眠れない」「軽度の消化器障害がある」などの副作用があるケースがあった場合は中止するという。

倫理委は「細胞レベルまで研究している」「インフォームドコンセントのルールを逸脱しておらず、プライバシーも守られる」などとして承認。苦情の窓口として佐伯委員長への報告を付け加えた。

また同日の倫理委では、二月二十六日に日本産科婦人科学会が不認可とした鹿大産婦人科の着床前受精卵診断について永田教授が経緯を報告。同学会が指摘した遺伝子診断について、永田教授が「困難だが遺伝子診断を検討したい」とし、同大倫理委小委員会でも永田教授の説明を受けながら、話し合いを続けていくことを確認した。

毎日新聞　2000年（平成12年）3月26日（日曜日）

# 緑茶でATL予防

## 鹿大医学部　来月から飲用試験

### 鹿児島市で研究発表会

「緑茶と健康」をテーマに開かれた研究発表会

難病「成人T細胞白血病（ATL）」の予防・治療の最新情報を広く知ってもらおうと、鹿児島大医学部の研究グループと厚生省の外郭団体が25日、鹿児島市内で、市民向けの研究成果発表会を開いた。緑茶のガン予防効果が注目されていることからテーマは「緑茶と健康」。園田俊郎教授はATLの発病予防を目的とした緑茶成分の飲用試験計画を発表。約200人の市民が熱心に耳を傾けた。

園田教授は、緑茶に含まれる渋み成分・緑茶ポリフェノールが、がん細胞やウイルスを自然死させる効果に注目。鹿大倫理委の承認を得て、来月からウイルス感染者（キャリア）への実際の飲用試験を始める。

試験は100人を2グループに分け半年間ずつ、知覧産の緑茶から抽出したエキス入りカプセルを、1日9錠（茶10杯分）飲み続けてもらう。血液検査でウイルスの減少効果などを調べる。基調講演した園田教授は「南米やアフリカなど海外にもATL患者が多い。鹿児島での研究成果が、地球を救う可能性がある」と訴えた。

ATLは、ウイルス（HTLV−1）による免疫細胞のがん。主な感染ルートは母子間など。国内では鹿児島など九州西南部にキャリアが多い。発病後の致死率は高いが実際に発病する率は低い。【須藤　大輔】

西日本新聞　2000年(平成12年)3月26日

# 「がん予防に緑茶を」

## 鹿児島市でシンポ　研究者ら訴え

鹿児島県などを中心に患者が多い、血液のがんの一種である成人T細胞白血病（ATL）の予防に、緑茶の成分を生かすことを研究している鹿児島大医学部の園田俊郎教授（ウイルス学）のグループが二十五日、「緑茶と健康」をテーマに鹿児島市で公開シンポジウムを開いた。約二百人の市民が、身近な飲み物に隠された大きなパワーの話に熱心に耳を傾けた。

シンポは、厚生省の支援を受けて園田教授らが進めているATLの発症予防に関する研究班の活動成果を広く知ってもらおうというねらい。

特別講演では、藤木博太・埼玉県がんセンター研究所所長が「緑茶エキスを飲ませたラットは、胃がんや肺がんの発生率が大幅に下がる」という研究成果を報告。緑茶を一日に十杯以上飲むことが発がん予防に貢献する、と訴えた。

園田教授は、研究グループが四月から、ATLウイルスを体内に持つ人百人を対象に緑茶成分を含むカプセルを半年間飲んでもらいその効果を確かめる実験を始めることを報告した。枕崎市のお茶生産農家、茅野薫さん（五八）は「すばらしい研究だ。ATL撲滅に役立ってほしい」と話していた。

緑茶のがん予防への効用について、熱心に耳を傾ける一般参加者たち

南日本新聞
2000年(平成12年)3月26日

# ATL予防 緑茶に期待

## 鹿大グループ研究発表

南九州に多い難病成人T細胞白血病（ATL）の予防と治療について本年度、厚生省の指定科学研究している園田俊郎鹿児島大学教授らの研究班が二十五日、鹿児島市の県看護研修会館で講演会「緑茶と健康」を開いた。

園田教授らは、これまで治療効果がほとんどなかったATLについて「骨髄移植などで効果がみられ、緑茶による予防と治療の期待もある」などと最近の成果を発表。訪れた約二百五十人の市民らの質問などに答えた。

県内の専門家らがパネリストとなったパネルディスカッションで、吉永光裕・鹿大周産母子センター助教授は「母乳を三カ月まで短期にとどめることで母子感染の防止がかなり期待できる」と成果を示しながら発表。四月から緑茶の飲用試験を始める園田教授は「緑茶が感染した細胞の死（アポトーシス）を誘導する働きを持つ」などとこれまでの研究と試験の計画を披露した。

厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）
成人T細胞白血病（ATL）の発症予防と治療に関する総合的研究
平成11年度研究報告書

発行　平成12年3月31日
編集者　園田俊郎
印刷所　斯文堂株式会社